



ラスボスの思想(54)



意識と電磁波

春日信彦



目次

1

意識と電磁波

人はだれしも悩みます。なぜでしょうか。例えば、今の悲しい感情を言葉にしたいときは、よく使いこなせている日本語を使うでしょう。仮に、その気持ちを喋ったことのないドイツ語で話さなければならなかったとしましょう。その場合、あなたは、聾啞者のようにどのように声を出せばいいのかわからなくなり、パニックに陥ることでしょう。これらの例から言えることは、いかなる人も、ニューロン機能には、限界があるということなのです。

しかしながら、ニューロン機能は、何らかの条件によって、限界を克服する能力があります。例えば、学習によって語彙数を増加できる、経験を積むことによって多種多様の笑顔を作り出せる、筋トレして筋肉が大きくなる、練習で速く走れるようになる、レッスンで歌唱力が向上する、などのように、人は、いろんな技術が向上します。向上することとは、ニューロン機能の活性化とシナプスの増殖が起きたといえるでしょう。一方では、逆に記憶した語彙を忘れる、筋肉が小さくなる、走るのが遅くなる、歌が下手になる、などの技術の低下が起こります。この場合は、シナプス消滅、あるいは反応が低下したといえるでしょう。

2

ニューロン機能とシナプス反応は、向上する一方で、低下もするということです。最終的な機能低下は、ニューロンの死滅になります。しかしながら、私たちは、ニューロンが死滅するまでは、何らかの意識を持つことができます。そこで、生きてる間は、可能な限り、ニューロンを有効利用したいわけです。どうすれば、より、有効に利用できるのでしょうか。

現在、AIのおかげで、ニューロン、シナプス機能は、グリア細胞の働きによって、向上することはある程度分かってきています。しかしながら、グリア細胞の機能は、どういう条件によって機能向上するかはわかっていません。わたくしの”突然意識”による実践としては、突然発動した理解不能なニューロン機能がグリア細胞をより機能向上させているように感じます。つまり、突然発動した”突然意識”が、グリア細胞を機能させているのです。

3

あくまでも個人的な実践ですから、説明することがとても難しいのですが、”意識的に”グリア細胞を機能させるとニューロン機能が向上しているように感じるのです。ここでの問題は、”意識的に”ということですが、まず第一に、どのようにして、どのような過程を経て、”意識的に”グリア細胞をより機能促進させるようになったのかというこ

とです。第二に、グリア細胞のどのような機能を促進させているのかということです。

今のところ、両者とも、解明できていません。直感ですが、奇跡的突然発動したニューロンがグリア細胞を通常以上に機能させているように思われます。もしかしたら、何らかの”脳内ホルモン”が、一定量に達すると、ニューロンの特殊な機能が突然発動され、グリア細胞に作用し、その作用によって、グリア細胞機能が促進されているのではないかと思われます。非常にあいまいな説明ですが、ニューロンの電位変化と脳内ホルモン作用は、具体的にはAIでも解明できないように思われます。というのも、”意識”がかかわっているからです。今後、AIが意識を解明できれば、この現象も解明できるのではないかと期待はしています。

4

多くの人は、AIが発達している現在、電磁波を応用すればニューロンコントロールは可能ではないか、という意見があるように思われます。しかしながら、この考えは、短絡的で、失敗に終わるように思われます。というのも、現在、かなりAIが発達したといえども、シナプスの化学物質の種類が特定できたとして、シナプス電位、その化学物質の数、速度、の変化を計測し、さらに応用することは、不可能でしょう。

現に、電磁波による実験では、脳機能に変化を起こすことはできても、有効利用はできていません。それどころはか、電磁波によって、ニューロン破壊が続発しているのが現状です。ニューロンは電位変化によって機能しているため、一般の方でも、それが電磁波の影響を受けることは容易に理解できるでしょう。人道を無視した人体実験として、電磁波を脳機能に作用させるならば、脳の破壊につながります。

5

今後、AIがより発達し、脳内ホルモン、ニューロン、グリア細胞の数量的解析が行われ、意識変化のコントロールがある程度可能になったとしても、グリア細胞をコントロールできる意識の解明は、できないのではないかと思われます。”意識”の解明は、永遠のテーマと言えるのではないのでしょうか。確かに、意識は、ニューロン機能ですから、ある程度は薬物と電磁波でコントロールできると思われます。

しかしながら、ニューロンとニューロンの相互作用、シナプスの化学物質の無限ともいえる反応は、AIといえども解明できる領域とは思えません。やはり、脳の有効利用は、ニューロンが作り出す記号を媒介とした意識の研究に頼るほかないでしょう。私の場合、突然変異的な意識によるグリア細胞の活用について述べましたが、今のところ、私自身でも、十分理解できない状態です。ただ、グリア細胞が、ニューロン機能の変化に大きくかかわっていることは、”実感的”に言えます。

ラスボスの思想(54)

著 者 春日信彦

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
